

目的 織物に対する視覚的評価で、日本の学生の方が韓国学生よりシルクデシンとポリエステルデシン（絹様織物）の違いをよく見分けることを示した<sup>1)</sup>。今回は韓国の織物で両国の学生の視覚的評価がどのように対応するかを調べた。

方法 試験布は無彩色の白、黒、有彩色の赤、青、黄、緑系6色のシルクデシン（韓国製）を用いた。官能検査は、Scheffèの対比較法（順序効果のない場合）で官能量としては、色、つや、表面性能、好みに関する11項目について、たて方向とよこ方向の2方向からの検査を5段階評価により行なった。他方、織物の構成、色、光反射特性を測定しこれら色違いデシンの構成、光反射特性などの差を明らかにした。

結果 官能検査で韓国学生の方が日本学生より全体に官能量の開きが大きく、よこ方向から評価したつやの大きさ、明るさ以外はすべて韓国学生の分散比が大きい。表面のなめらかさと粗さについては日本学生がよこ方向から見た時の評価の方が分散比が高く色違い試料に対し大きく見分けているが、韓国学生の評価は方向が逆で、たて方向から見た時の方がよこ方向より分散比がかなり大きい。また、韓国学生と日本人学生の黄系に対する好みの傾向が大きく違い、日本人学生が青系の次に黄系がつやが大きいと評価しているのに対し、韓国学生は、その傾向がはっきりしていない。韓国学生が黄系を全く好んでいない評価が、他の評価に影響されているむきがある。

1)成瀬信子 山田由美子 朴一録：日韓合同繊維研究発表論文集651(1983)